板橋区高齢者等地域リハビリテーション連携モデル

この図は、脳卒中や骨折など急激な発症により病院でリハビリテーションを受けている方が、住み慣れた地域でのその人らしい生活の再構築に役立ててもらうために、①リハビリテーションの流れ　②相談・連携窓口　③生活期のリハビリテーションの内容について示したものです。

急性期リハビリテーション

- ◆ 発症からおよそ1カ月以内のリハビリテーション
- ◆ 治療と並行して、早めにベッドから起き上がり、合併症や寝たきりによる筋力低下等を予防します。

回復期リハビリテーション

- ◆ 発症から2～6カ月の間のリハビリテーション
- ◆ 心身機能の回復訓練、日常生活動作（食事、入浴、排泄など）、家事の訓練など家庭復帰に向けた支援が集中的に行われます。

生活期リハビリテーション

2015年介護保険制度改正で理念や内容が変わりました！

- ◆ 発症からおおよそ6カ月以降のリハビリテーション
- ◆ 心身機能の改善のための訓練だけでなく、家庭や地域での役割の再獲得に向けて、本人の興味や関心を引き出し、活動・参加を高める支援が大切です。
- ◆「調理が出来るようになる」「老人会の集まりに行く」等生活に密着した具体的な目標を本人と共に考え決めた上で、それに向けてリハ専門職だけでなく多職種協働で支援を行います。
- ◆ 住宅改修や福祉用具の活用、地域の活動先など環境整備も重要です。

発症

急性期リハビリテーション

大学病院、総合病院等
急性期リハ実施病院

【相談・連携窓口】
院内の医療相談室、退院支援室など

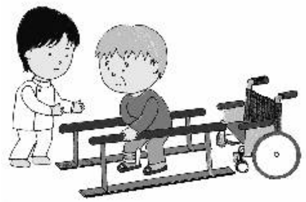
退院時連携

回復期リハビリテーション

回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟を持つリハ病院など

【相談・連携窓口】
ソーシャルワーカーや看護師など

退院時連携



入院・入所のリハビリテーション

【相談・連携窓口】
それぞれの施設の相談員

療養型病院、介護療養型医療施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設　など

在宅のリハビリテーション

【相談・連携窓口】
ケアマネジャー
おとしより相談センター
介護保険要介護認定やケアプランの作成の相談
医師会療養相談室
在宅医療に関する相談

介護保険サービス
通所リハ、通所介護、住宅改修、訪問介護、福祉用具、訪問看護、訪問リハ

かかりつけ医師、歯科医師、薬剤師

民生委員

相談・連携窓口の後方支援機関
医師会療養相談室・板橋区おとしより保健福祉センター
豊島病院地域リハビリテーション支援センター

地域生活

【相談・連携窓口】
おとしより相談センター

活動、参加場所
地域のサロン、自主グループ、老人会、趣味の会、ボランティア活動、生きがい就労、就労　など

かかりつけ医師、歯科医師、薬剤師

民生委員 ⇔ 社会福祉協議会 ⇔ ボランティアセンター

めざす方向

≪作　成≫　板橋区高齢者等地域リハビリテーション連携会議
≪事務局≫おとしより保健福祉センター　介護普及係
〒174-0063　板橋区前野町4－16－1
平成27年度作成